

第 10 回県民意識調査  
(沖縄県振興推進委員会説明資料)

平成 31 年 3 月

沖縄県企画部



## 第 10 回県民意識調査の概要

### (1) 調査目的

社会の構造的変化の中で多様化する県民の意識や、価値観、ニーズの変化及び行政に対する要望等について把握して合理的な分析を行い、「沖縄 21 世紀ビジョン(平成 22 年 3 月)」で掲げた将来像の実現及び「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画(平成 24 年 5 月)」(以下、「基本計画」という。)の推進等に役立て、今後の県政運営に広く活用することを目的とする。

### (2) 調査の種類と調査項目

今回は、昭和 54 年以降、概ね 3～5 年ごとに実施してきた「県民意識調査(第 10 回)」(以下、「本調査」という。)に加え、離島のニーズ把握のための「離島住民特別調査」(以下、「離島調査」という。)の 2 種類の調査を実施した。

本調査は継続調査として過去調査との時系列比較が重要であることから、前回(第 9 回)調査の調査項目に準拠した調査項目とした。ただし、毎回、その時々为社会事情等を考慮した特定テーマ質問を設けており、今回は「子どもの貧困」に関する質問を設定した。

離島調査については、本調査との比較を目的に本調査に準拠した調査項目を設定するとともに、離島振興対策等の離島特有の課題等に関する質問を設定した。

#### 【調査項目(本調査・離島調査)】

本調査	離島調査
①基本属性(年齢、性別、職業など)	①基本属性(年齢、性別、職業など) *
②県民の自己像【問1】	②島民の自己像【問1】 *
③地域とのつながり【問2】	③島(民)の長所・短所【問2】 *
④生活各面の重要度【問3】	④居留意向【問3】 *
⑤生活各面の充足度(満足度)【問4】	⑤生活状態の意識、変化、今後の見通し【問4】 *
⑥県民の価値観【問5】	⑥離島振興施策に対する評価・優先度【問5】
⑦居留意向【問6】	⑦産業の振興度【問6】 *
⑧県(民)の長所・短所【問7】	⑧離島の人口増加対策【問7】
⑨生活状態の意識、変化、今後の見通し【問8】	⑨離島の将来に向けて必要だと思うこと【問8】
⑩生活状態の達成度と希望【問9】	
⑪産業の振興度【問10】	
⑫重点施策【問11】	
⑬米軍基地への対応【問12】	
⑭子どもの貧困【問13】	

※離島調査の\*印は本調査との共通項目を示す

### (3) 調査設計

#### 【調査設計（本調査・離島調査）】

	本調査	離島調査
母集団	県内に居住する満15歳以上満75歳未満の男女	県内の有人離島（沖縄本島、宮古島、石垣島を除く）に居住する満15歳以上満75歳未満の男女
調査地点及び標本数	200地点 2,000人（注1）	50地点 500人（注2）
抽出方法	層化二段無作為抽出法	本調査と同じ
調査方法	留置法（調査票の配布及び回収を調査員が直接個別訪問して行う）	本調査と同じ
調査期間	平成30年7月30日～9月17日	本調査と同じ
有効回収数（率）	1,374人(68.7%)	371人(74.2%)
調査実施及び分析委託期間	株式会社サーベイリサーチセンター	

**（注1）** 沖縄県の市町村を北部、中部、那覇市、南部、宮古、八重山の6地域に分類し、原則、地域別に2,000標本を人口規模に応じて比例配分した。この場合、地域間の標本数の差が大きくなり、地域別の精度も異なってくるため、人口の少ない宮古地域、八重山地域については、他の地域に比べ2倍の標本数を割り当てるウェイト付きサンプリング及び集計を行った。

**（注2）** 有人離島（沖縄本島、宮古島、石垣島を除く）のうち、平成27年国勢調査人口が50人以上の島を対象とし、人口規模に応じて標本数を比例配分した。調査対象の離島は下表のとおり。

#### 【離島調査の対象】

地域	自治体	調査対象の離島	調査対象外の離島 ※H27 国勢調査人口 50人未満
北部	本部町		水納島
	伊江村	伊江島	
	伊平屋村	伊平屋島、野甫島	
	伊是名村	伊是名島	
中部	うるま市	津堅島	
南部	南城市	久高島	
	渡嘉敷村	渡嘉敷島	
	座間味村	座間味島、阿嘉島、慶留間島	
	粟国村	粟国島	
	渡名喜村	渡名喜島	
	南大東村	南大東島	
	北大東村	北大東島	
久米島町	久米島	奥武島	
宮古 (宮古島除く)	宮古島市	池間島、来間島、伊良部島、下地島	大神島
	多良間村	多良間島	水納島
八重山 (石垣島除く)	竹富町	竹富島、西表島、鳩間島、小浜島、黒島、波照間島	由布島、新城島(上地、下地)、嘉弥真島
	与那国町	与那国島	

\*\*\* 第10回県民意識調査 \*\*\*

# 沖縄県

## 暮らしについてのアンケート

(平成30年8月調査)

- 沖縄県では、県民の皆さんの意識や価値観、ニーズ等の変化の状況を把握し、県政運営に役立てるため、昭和54年から概ね3~5年ごとに、県民意識調査を行っています。
- 今回は、「**県民意識調査（第10回）**」に加えて、離島住民のみを対象とした「**離島住民特別調査**」を行いました。
- 調査では、その時々为社会事情等を考慮した質問を設けており、今回の調査では、「**子どもの貧困対策**」に関する質問を設けています。

※調査設計等の概要は、最終ページをご覧ください。

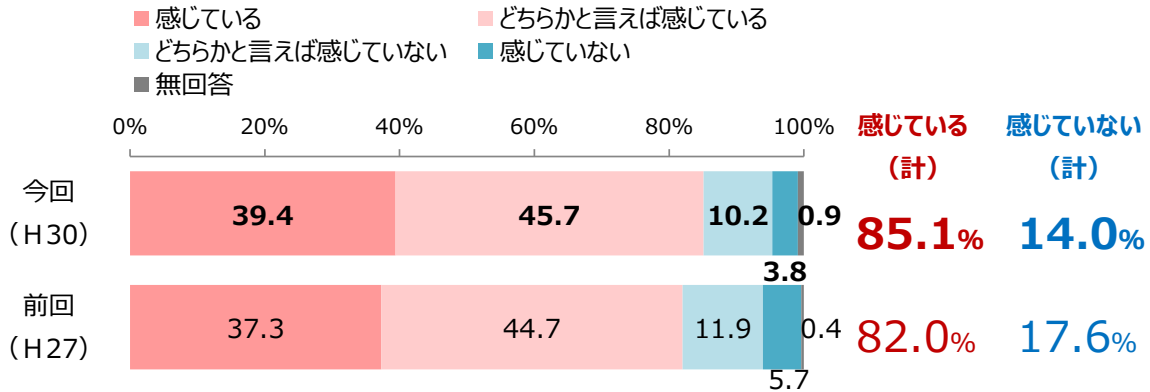
※次のページからの図表などでは、県民意識調査を「本調査」、離島住民特別調査を「離島調査」と表示しています。

# 県民の自己像

本調査

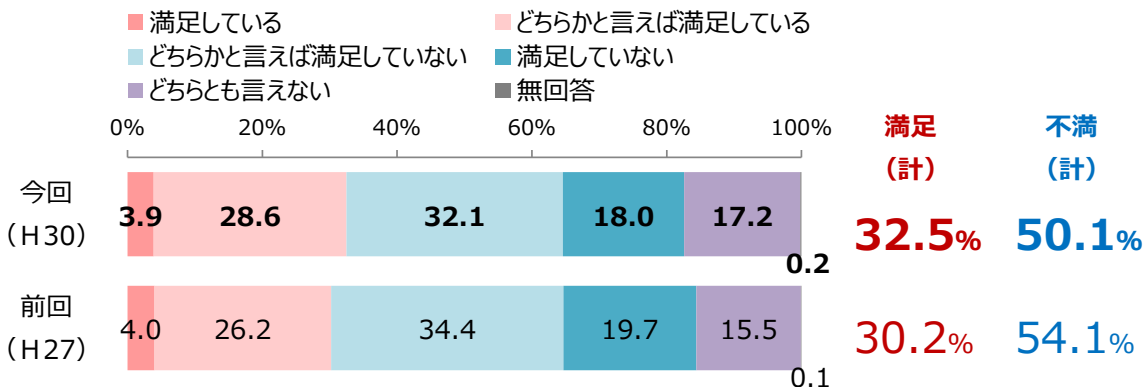
## 幸せ感 －今、「幸せ」だと感じていますか？－

● 県民の 8 割強が「幸せ」を感じており、その割合は前回調査からやや高まっています。



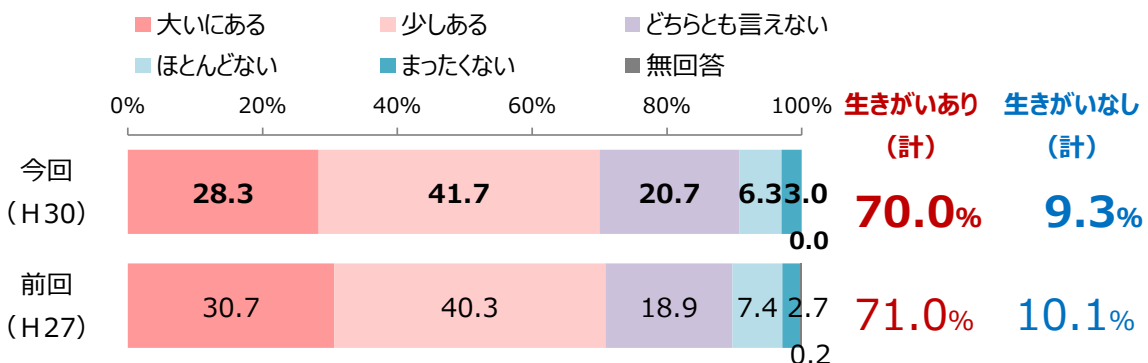
## 社会に対する満足度 －現在の社会に全体として満足していますか？－

● 県民の 5 割が現在の社会について不満を感じていますが、不満層の割合は前回調査から下がっています。



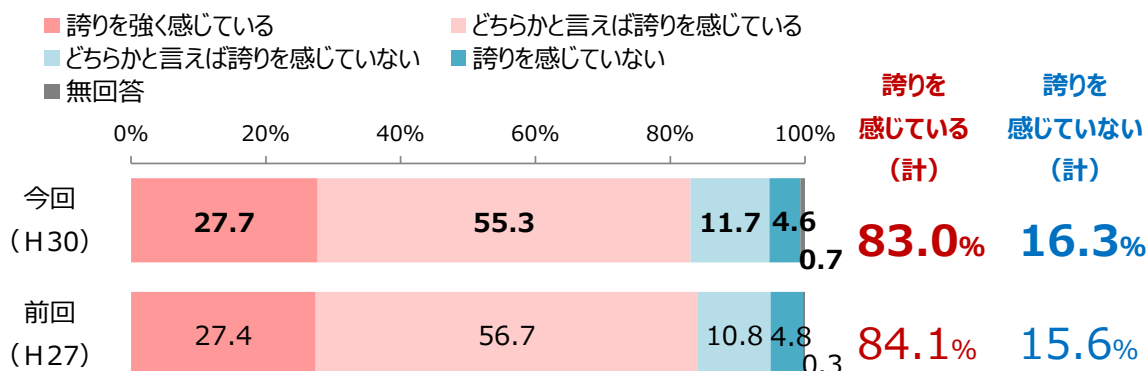
## 生きがい －「生きがい」にしていることはありますか？－

● 前回調査と同様に、県民の 7 割は生きがいを持っています。



## 沖縄県への誇り － 沖縄県に誇りを感じますか？ －

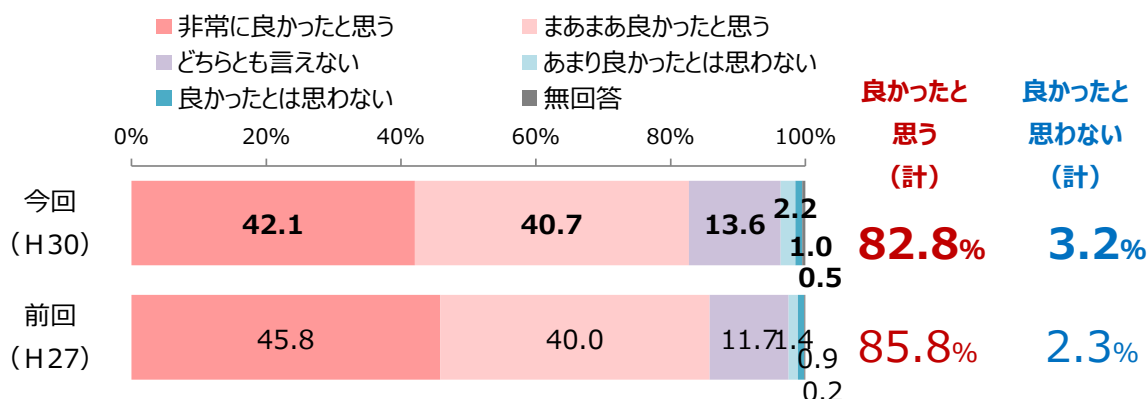
● 前回調査と同様に、県民の8割強が沖縄県に誇りを感じています。



## 沖縄県に生まれて良かったか

－ 沖縄県に生まれ、あるいは生活できて良かったと思いますか？ －

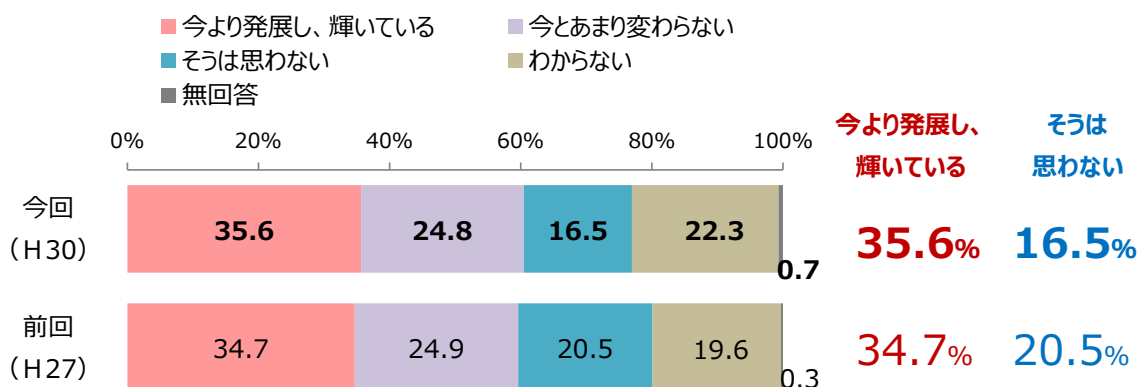
● 県民の8割強が沖縄県に生まれ、あるいは生活できて良かったと感じていますが、その割合は前回調査からやや減少しています。



## 20年先の沖縄

－ 20年先の沖縄は現在よりも発展し、輝いていると思いますか？ －

● 20年先の沖縄の発展については、「今より発展し、輝いている」が3割強と最も割合が高く、次いで「今とあまり変わらない」となっています。前回調査と比べると「そうは思わない」の割合は減少しています。



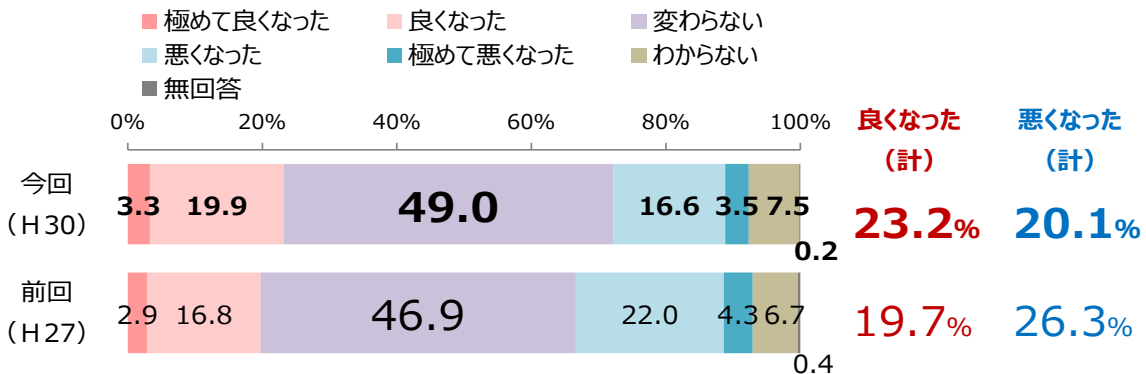
# 生活状態（くらしむき）

本調査

## 生活状態の変化

－生活状態（くらしむき）は、4、5年前に比べてどうですか？－

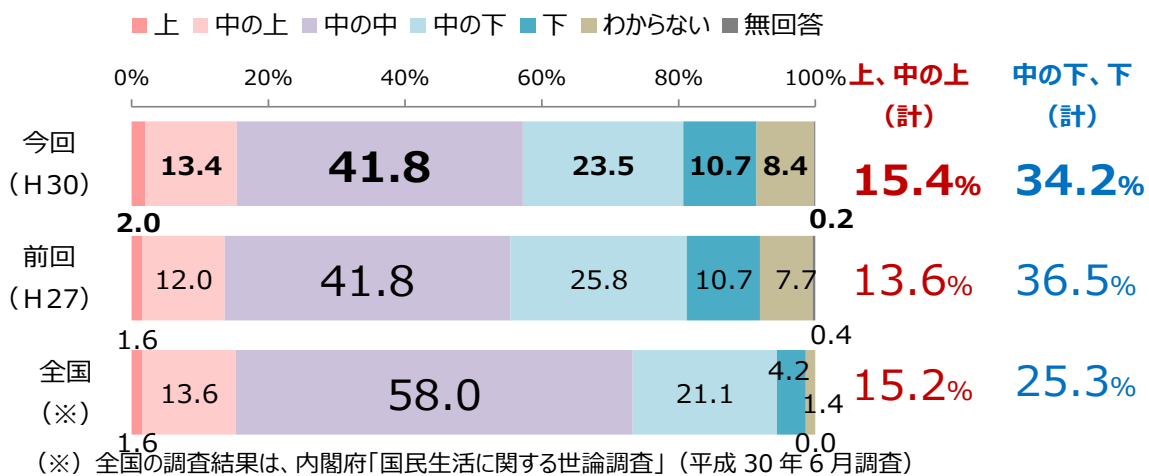
- 「変わらない」が5割を占めて最も割合が高くなっています。前回調査と比べて「悪くなった」が減少し、「良くなった」「変わらない」の割合が高まっています。



## 現在の生活状態

－現在の生活状態（くらしむき）は、一般的にみて次のどれにあたると思いますか？－

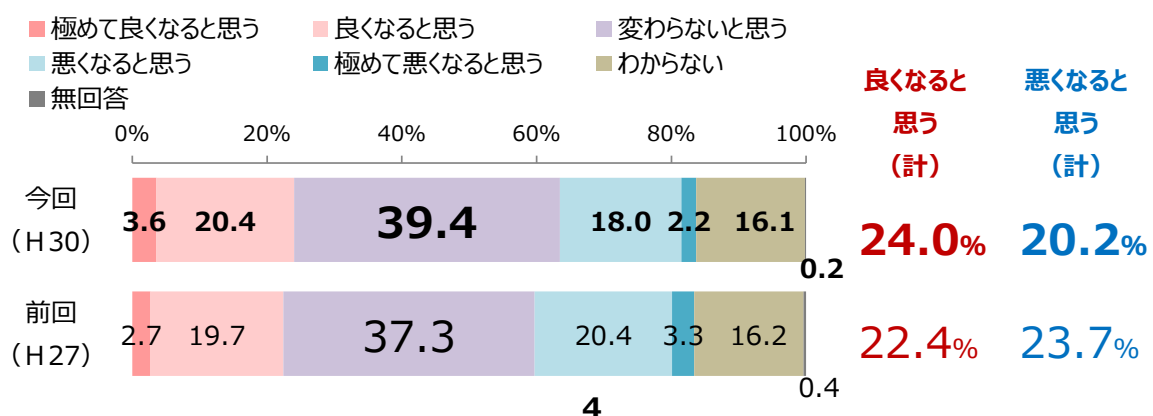
- 「中の中」が4割を超えて最も割合が高くなっていますが全国に比べて低く、代わって「下」や「わからない」の割合が高くなっています。



## 生活状態の見通し

－生活状態（くらしむき）は、今後はどうなるとお考えですか？－

- 「変わらないと思う」が4割を占めて最も割合が高くなっています。前回調査と比べて「悪くなると思う」の割合はやや減少しています。





# 生活に関する事柄の重要度・充足度

本調査

県民の日常生活に必要な事柄を75項目に整理して、「重要度」と「充足度（満足度）」を6段階評価で質問。

## 生活に関する事柄の重要度

－次にあげる事柄（75項目）は、あなたの今の暮らしにとってどのくらい重要ですか？－

- 今の暮らしにとって重要なことでは、「安心して家庭で水が使える」「犯罪がない安心なくらしの確保」をはじめとした安心・安全な生活基盤や、医療に関すること、年金等の収入に関すること、子どもに関することなどが上位にあがっています。
- 前々回（平成24年）の調査と比べて重要度が高まった項目は、インターネット接続や移動・交通、女性活躍に関することなどです。

### 重要度※ 上位10項目

※「非常に重要である」の割合

(%)

順位	項目	今回 [平成30年]	前回 [平成27年]	前々回 [平成24年]
1位	安心して家庭で水が使える	80.1	79.2 2位	82.0 1位
2位	犯罪がない安心なくらしの確保	76.3	79.1 3位	78.7 3位
3位	救急患者が適切な治療を受けられる	75.5	74.4 4位	75.8 5位
4位	老後に不安のない年金が得られる	74.5	80.2 1位	80.5 2位
5位	良質な医療を受けられる	71.9	72.3 7位	71.5 7位
6位	費用の心配なく、医療を受けられる	70.7	73.7 5位	73.3 6位
7位	下水道が整備されている	69.1	67.4 10位	68.2 10位
8位	少年の非行や犯罪が少なくなる	68.0	73.7 5位	76.4 4位
9位	子供の育成環境が整っている	65.9	66.8 14位	68.1 11位
10位	収入が着実に増える	65.2	68.0 8位	67.0 12位

(注) 矢印は、順位の上昇・下降を表している

### 重要度が高まった項目

前々回 [平成24年] からの伸びが+5ポイント以上の項目 (全4項目)

快適にインターネットにつながる	+13.2ポイント	(H30: 34.1%←H24: 20.9%)
目的地まで円滑に移動できる	+9.0ポイント	(H30: 53.9%←H24: 44.9%)
公共交通機関が利用しやすい	+6.4ポイント	(H30: 55.9%←H24: 49.5%)
女性の社会活動参加、能力発揮	+5.4ポイント	(H30: 41.2%←H24: 35.8%)

## 生活に関する事柄の充足度

－次にあげる事柄（75項目）について、今それぞれがどのくらい満たされていますか？－

- 充足度は「安心して家庭で水が使える」、「下水道が整備されている」、「生活に必要な施設がある」の順で高くなっており、これらの上位3項目は過去2回の調査と同様です。
- 前々回（平成24年）の調査と比べて充足度が高まった項目は、収入や就労に関することや、自然・景観、環境保全に関すること、防犯・防災に関することなどです。

### ■ 充足度※ 上位10項目

※「非常に満たされている」+「ある程度満たされている」の割合

順位	項目	今回 [平成30年]	前回 [平成27年]	前々回 [平成24年]
1位	安心して家庭で水が使える	78.5	80.3 1位	78.8 1位
2位	下水道が整備されている	64.9	68.2 2位	65.3 2位
3位	生活に必要な施設がある	56.7	58.1 3位	56.6 3位
4位	住環境が良好	48.9	50.5 4位	45.3 5位
5位	食の安全・安心が確保されている	47.7	45.6 8位	41.9 7位
6位	豊かな自然が保全されている	47.2	47.6 5位	39.0 12位
7位	犯罪がない安心な暮らしの確保	47.1	45.9 7位	38.6 15位
8位	公園や親しめる自然などがまわりにある	45.8	46.3 6位	39.6 9位
9位	商品等の品質等が確保されている	45.0	44.3 9位	39.1 11位
10位	すすめることができる地域の特産品がある	42.3	44.3 9位	39.3 10位

(注) 矢印は、順位の上昇・下降を表している

### ■ 充足度が高まった項目

前々回 [平成24年] からの伸びが **+5ポイント以上** の項目 (全13項目)

近くで希望する仕事につける **+9.8ポイント** (H30: 27.7% ← H24: 17.9%)

犯罪がない安心な暮らしの確保 **+8.5ポイント** (H30: 47.1% ← H24: 38.6%)

豊かな自然が保全されている **+8.2ポイント** (H30: 47.2% ← H24: 39.0%)

収入が着実に増える **+7.7ポイント** (H30: 17.7% ← H24: 10.0%)

自分の住む町の景観、町並みが美しい **+7.5ポイント** (H30: 38.3% ← H24: 30.8%)

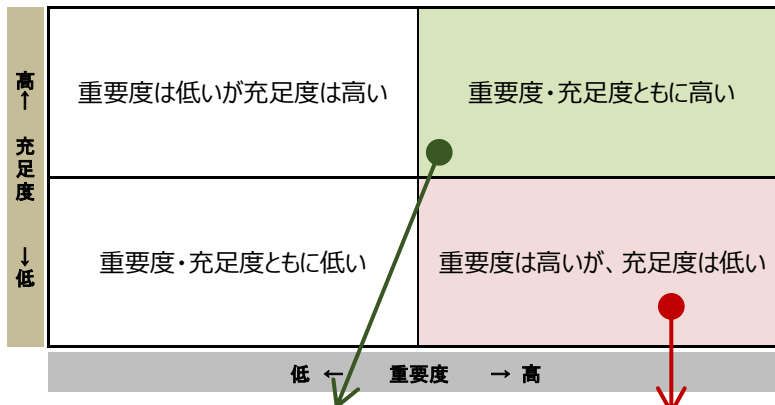
<上位6位以下の項目>

- 失業の不安がなく働ける
- 廃棄物の適正処理、減量化等が活発
- 防災対策が充実している
- 離島と本島間の移動ができる
- 公園や親しめる自然などがまわりにある
- 商品等の品質等が確保されている
- 赤土流出、騒音、環境汚染等が少なくなる
- 食の安全・安心が確保されている

## 重要度・充足度からみた県民ニーズ

- 県民の日常生活に必要な事柄 75 項目の重要度・充足度の平均得点を算出し、その関係性から県民ニーズの状態を 4 つの区分に分類しました（下図参照）。
- 重要度・充足度ともに相対的に高い区分には、上下水道のことをはじめとした 20 項目が該当しています。これらについては現在の充足度は高い状況ですが、ニーズも高いため、引き続き維持・強化が必要な項目と位置づけられます。
- 一方、相対的に重要度は高いが充足度は低い区分には収入や就労に関することなど 20 項目が該当しており、県民の満足度向上に向けた取り組みが求められる項目と位置づけられます。

### 重要度・充足度の関係 ※平均得点に基づく整理



#### 重要度・充足度ともに高い

- 安心して家庭で水が使える
- 下水道が整備されている
- 犯罪がない安心な暮らしの確保
- 救急患者が適切な治療を受けられる
- 食の安全・安心が確保されている
- 商品等の品質等が確保されている
- 生活に必要な施設がある
- 良質な医療が受けられる
- 住環境が良好
- 健康診断、健康の相談が受けやすい
- 防災対策が充実している
- 健全育成、教育環境がつけられている
- 子供の育成環境が整っている
- 夫婦が家事や育児にとりくむ
- 公園や親しめる自然などがまわりにある
- 平和を願う心が継承、発信されている
- 暴力の防止と支援環境が充実
- 適職、やりがいのある仕事ができる
- 廃棄物の適正処理、減量化等が活発
- 健康の維持や増進に努める

#### 重要度は高いが充足度は低い

- 老後に不安のない年金が得られる
- 収入が着実に増える
- 物価が安定している
- 費用の心配なく、医療を受けられる
- 失業の不安がなく働ける
- 仕事と生活が両立しやすい環境
- 少年の非行や犯罪が少なくなる
- 優れた能力や感性を育む教育環境の充実
- 障害者の社会参加が拡大している
- 介護サービスが充実し利用しやすい
- イライラやストレスなど精神的緊張が少ない
- 交通の安全が確保されている
- 公平な教育機会が確保されている
- 高齢者が住み慣れた地域でくらす
- 赤土流出、騒音、環境汚染などが少なくなる
- 目的地まで円滑に移動できる
- 近くで希望する仕事につける
- 学童保育所等が利用しやすい
- 必要な資質を身に付けられる教育環境
- 公共交通機関が利用しやすい

(注) 下線の項目は、充足度が特に高まった項目（前頁参照）

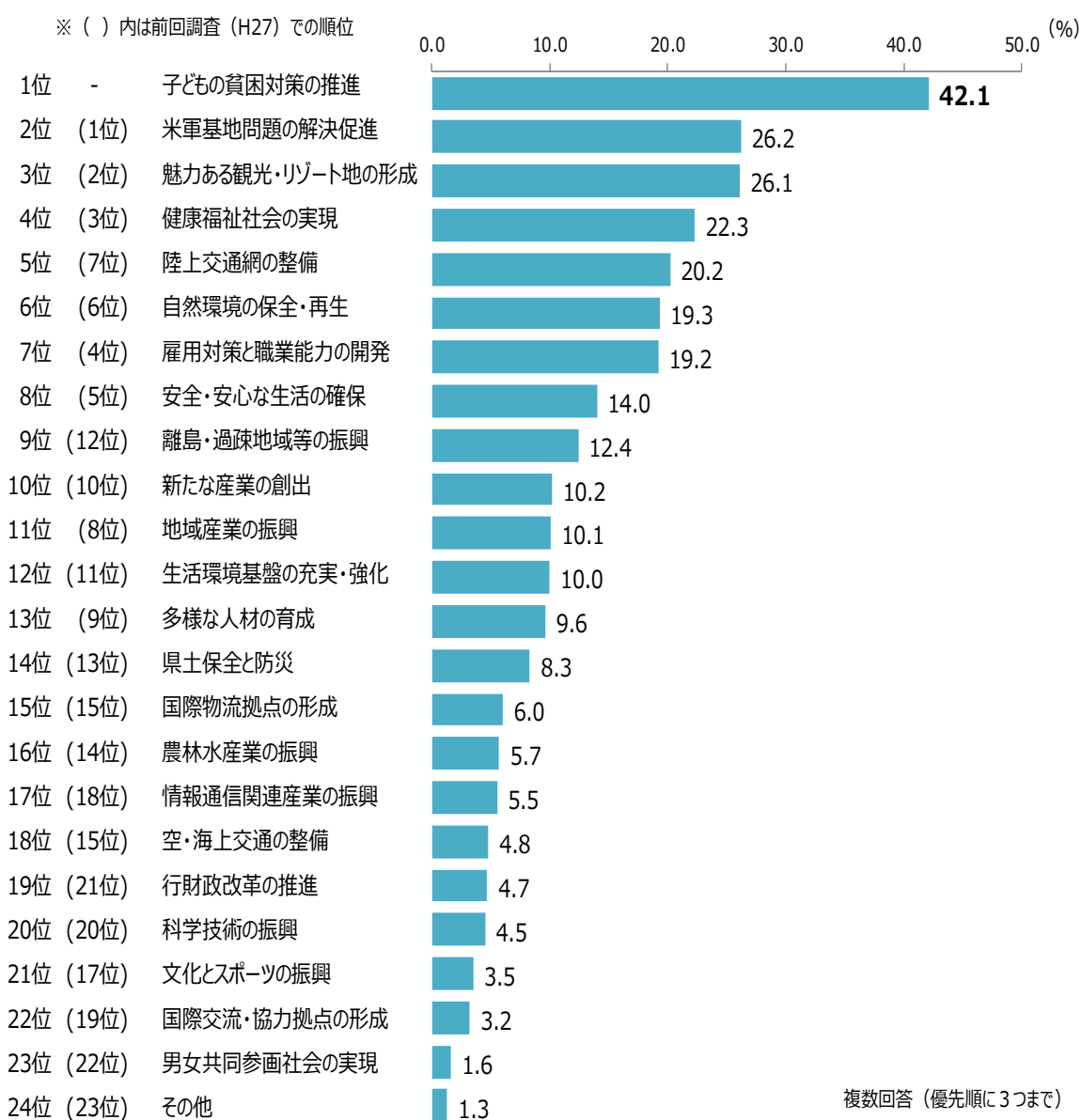
# 重点的に取り組むべき施策

本調査

## 県政全般の重点施策

－ 沖縄県の施策として、とくに重点を置いて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか？ －

- 今後、県の施策として特に重点を置いて取り組むべきことでは、「子どもの貧困対策の推進」が4割を超えて突出して高くなっています。
- 前回調査と順位を比較すると、新規項目として「子どもの貧困対策の推進」が加わり、かつ第1位となったため、多くの項目で相対的に前回から順位が下がっていますが、その中でも「陸上交通網の整備」や「離島・過疎地域等の振興」などは順位が上がっています。



(注) 「子どもの貧困対策の推進」は今回調査からの新規項目

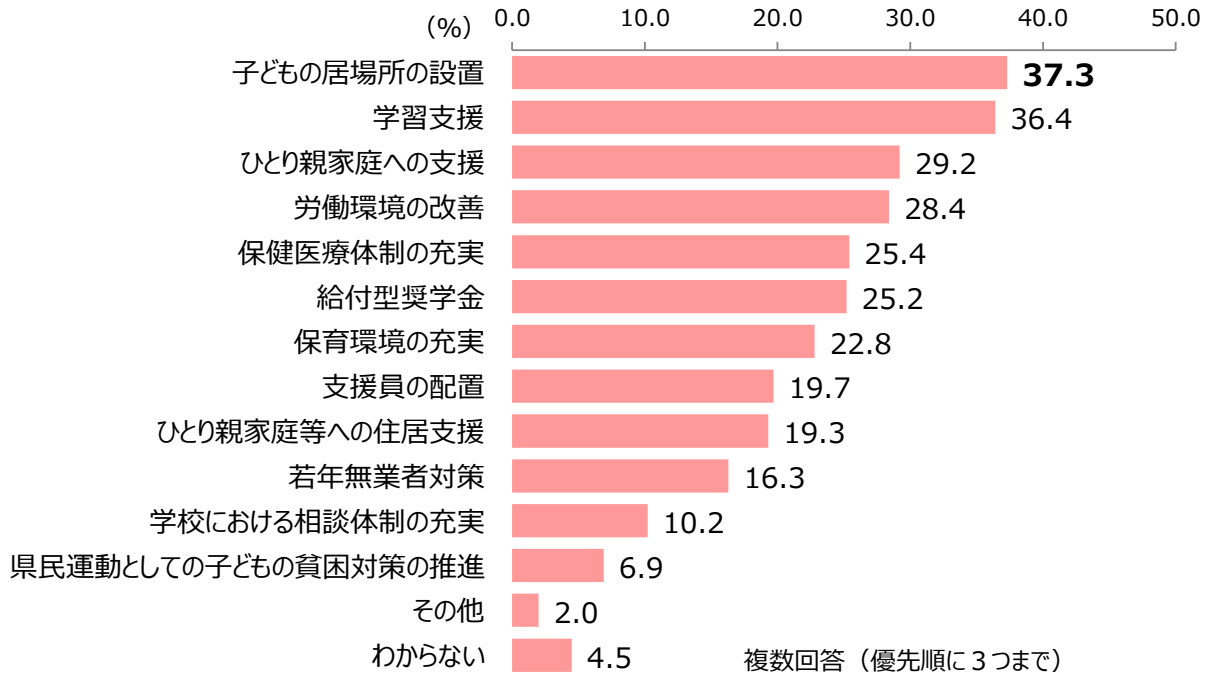
# 子どもの貧困対策

本調査

## 子どもの貧困対策（行政施策）

－子どもの貧困問題について、行政（国、県、市町村）にたくに力を入れてほしいものは何ですか？－

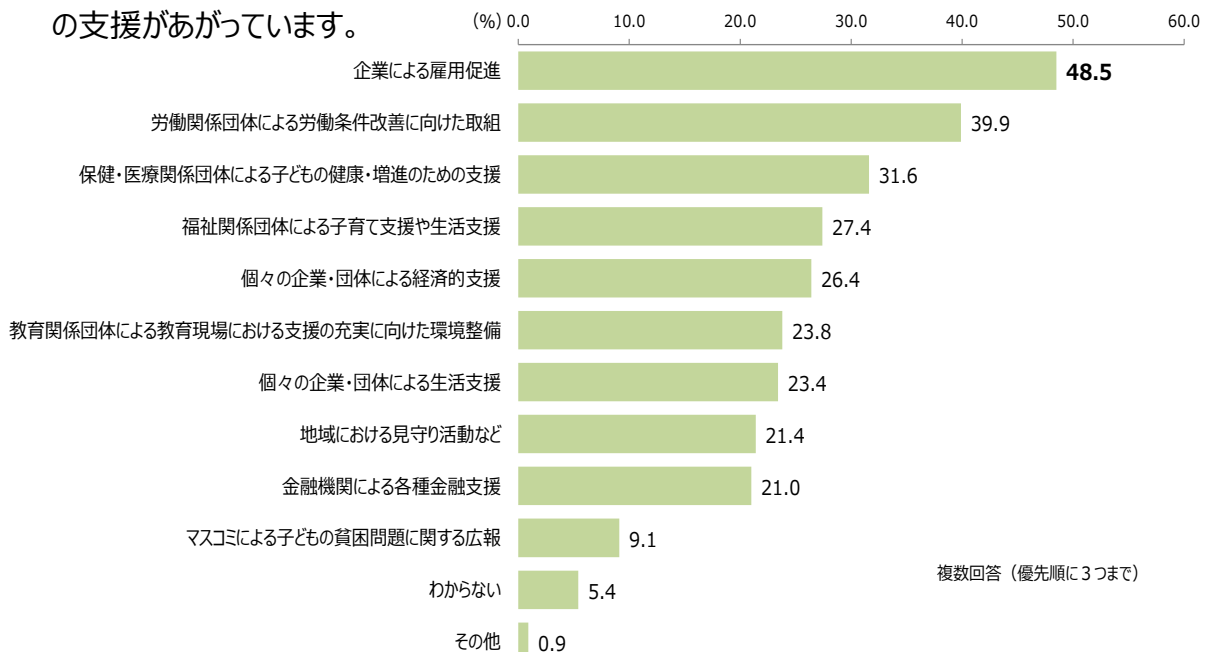
- 具体的に子どもの貧困対策として行政が特に力を入れるべきことでは、「子ども食堂などの「子どもの居場所の設置」と「学習支援」がそれぞれ3割を超えて高くなっています。



## 子どもの貧困対策（行政以外に期待する役割）

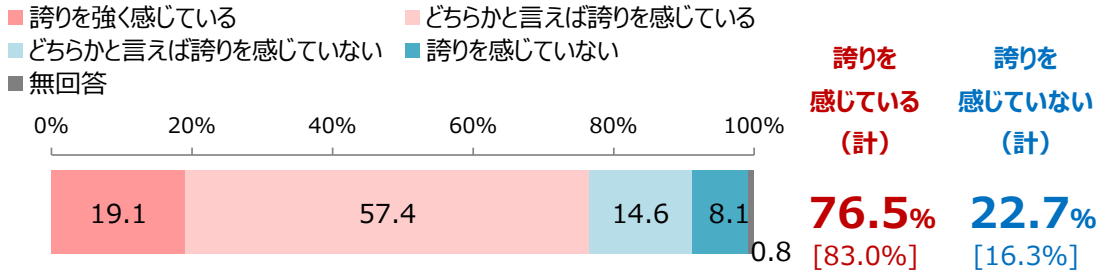
－子どもの貧困問題の解消に向けて、企業、団体など行政以外に期待する役割等がありますか？－

- 子どもの貧困対策として企業や団体などの行政以外に期待する役割では、「企業による雇用促進」が5割と最も高く、次いで「労働条件改善に向けた取組」と、保護者の就労に関することが第1・2位にあがっています。
- また、続く第3・4位には、「保健・医療関係団体」「福祉関係団体」による子ども・子育てへの支援があがっています。



## 島への誇り –この島に誇りを感じますか？–

● 離島住民の8割弱が住んでいる島に誇りを感じています。

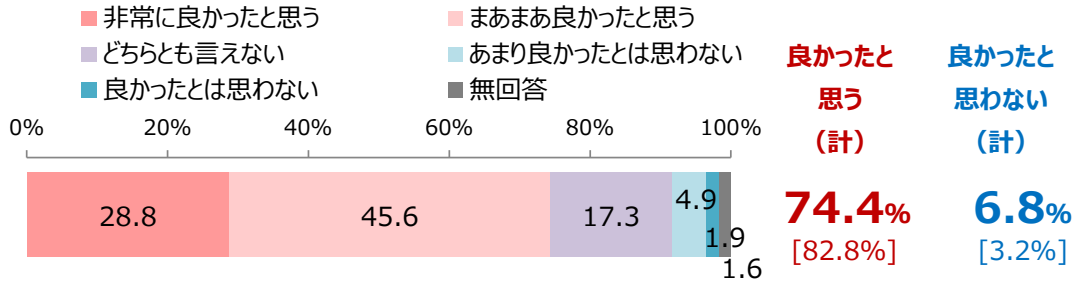


(注) [ ]内は、対応する本調査の結果 (P3~4 参照)。以下同様。

## 島に生まれて良かったか

–この島に生まれ、あるいは生活できて良かったと思いますか？–

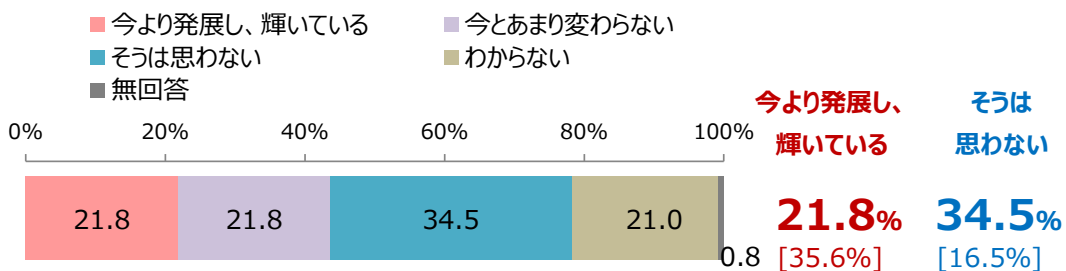
● 離島住民の7割強は住んでいる島に生まれ、あるいは生活できて良かったと感じています。



## 20年先の島

–20年先のこの島は現在よりも発展し、輝いていると思いますか？–

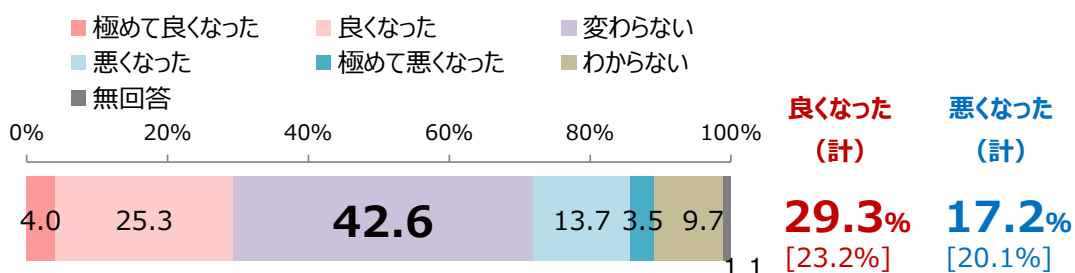
● 20年先の島の発展については、「(今より発展し、輝いているとは) 思わない」が3割強と最も割合が高くなっています。



## 生活状態の変化

–生活状態(くらしむき)は、4、5年前に比べてどうですか？–

● 「変わらない」が4割を超えて最も割合が高く、次いで「良くなった」が3割を占めています。



## 離島振興施策

### 【評価】

－ 沖縄県は以下の離島振興施策に取り組んでいます。それぞれについて4、5年前と比べてどう変わりましたか？－

### 【優先度】

－ 沖縄県や市町村等の施策として、今後重点的に取り組むべきことはどのようなことだと思いますか？－

- 離島振興施策の成果として評価が高い項目は「観光客の増加」と「島外に出る際の交通運賃」であり、離島住民の5割強が4,5年前に比べて良くなったと評価しています。次いで、「インターネットの使いやすさ」「島内の道路整備」「島の特産品の開発」で評価が高くなっています。
- 今後重点的に取り組むべきことでは、「食品、日用品などの生活必需品の価格」「島外に出る際の交通運賃」「ガソリン価格の安定」といった日常生活や移動に係る費用負担に関することが、それぞれ5割を超えて上位3位を占めています。

## 離島振興施策の成果として評価が高い項目

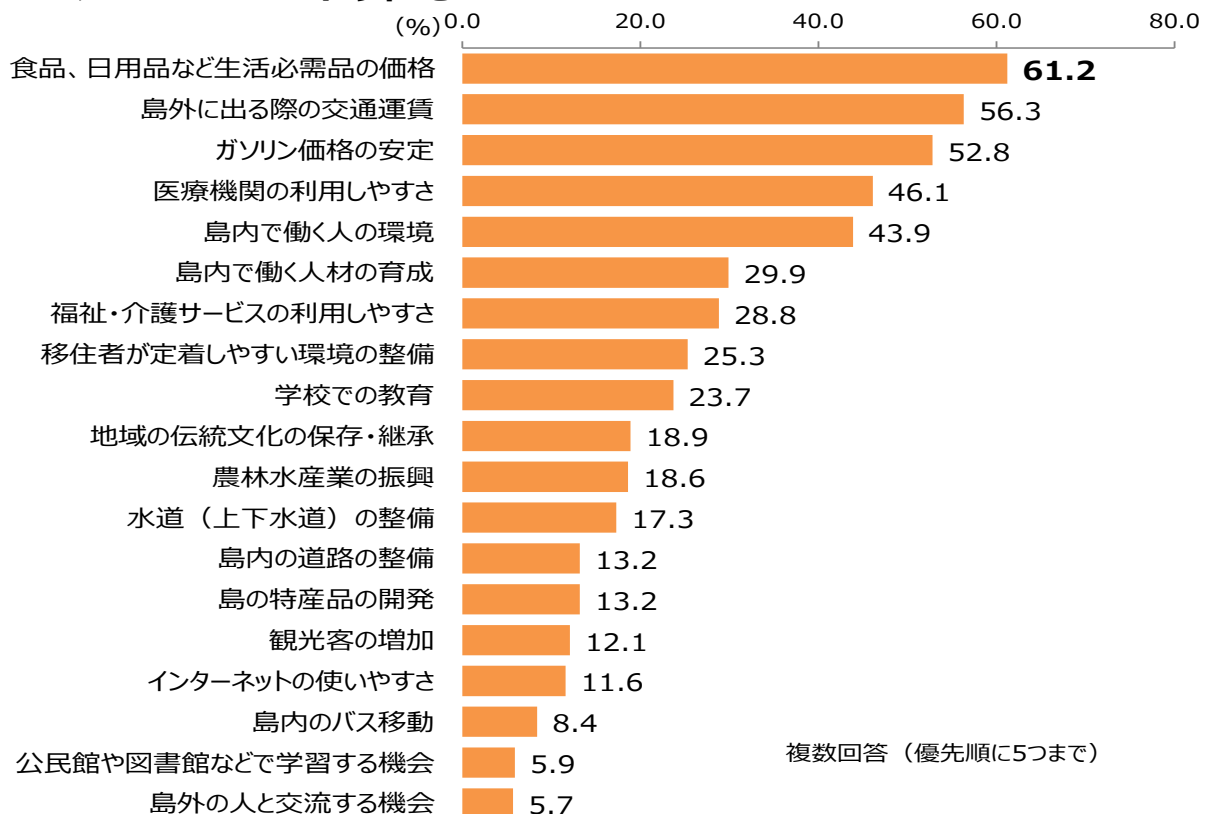
4,5年前に比べて「極めて良くなった」「良くなった」と評価された項目（上位5項目）

観光客の増加	<b>53.9%</b>	（極めて良く：10.0% + 良く：43.9%）
島外に出る際の交通運賃	<b>52.3%</b>	（極めて良く：11.9% + 良く：40.4%）
インターネットの使いやすさ	<b>41.5%</b>	（極めて良く：5.9% + 良く：35.6%）
島内の道路の整備	<b>37.5%</b>	（極めて良く：3.5% + 良く：34.0%）
島の特産品の開発	<b>29.4%</b>	（極めて良く：2.4% + 良く：27.0%）

<上位6位以下の項目（25%以上）>

- 福祉・介護サービスの利用しやすさ
- 学校での教育
- 医療機関の利用しやすさ

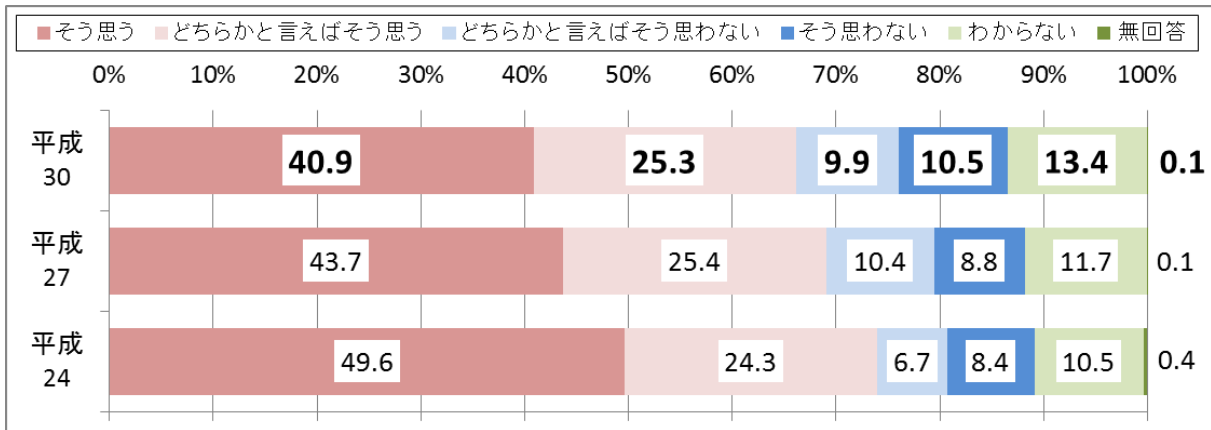
## 今後重点的に取り組むべきこと



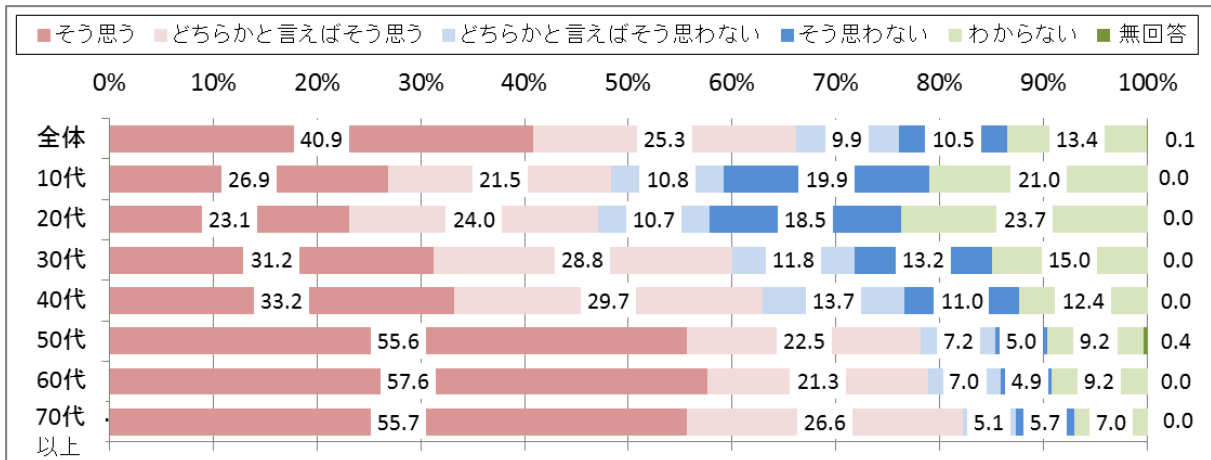
## 【参考】米軍基地に関する調査項目

### 1 米軍基地への認識

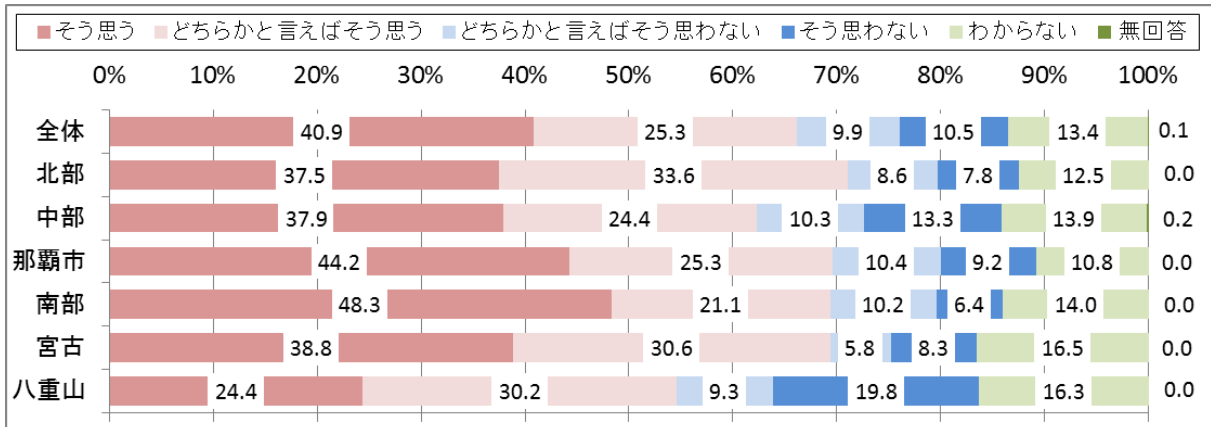
県民の米軍基地への認識について、「沖縄県に全国の米軍専用施設面積の約70%が存在していることについて、差別的な状況だと思いますか。」という質問を行った。「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせて66.2%が差別的だと感じているという結果になった。



### 年代別



### 地域別





## 2 米軍基地に関する行政への要望

米軍基地から派生する様々な課題について、解決に向けて国や県に特に力を入れてほしいと考える項目を、順位をつけて3つ選択してもらい、それを総合的に評価するために加重平均を求めて順位づけを行った。結果は前回とほぼ同様の傾向であり、「基地の返還」が一位となっている。

順位	質問	H27
1位	基地を返還させること	← (1位)
2位	日米地位協定を改定すること	← (2位)
3位	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと	← (3位)
4位	米軍機の騒音や住宅地上の低空飛行訓練をなくすこと	← (4位)
5位	米軍人等の事件・事故被害については、日米両政府で補償すること	← (5位)
6位	返還された軍用地を早めに利用できるようにすること	← (6位)
7位	環境汚染の対策を講じること	← (7位)
8位	米軍の演習をなくすこと	✓ (7位)
9位	基地内の各種施設を気軽に利用できるようにすること	✓ (7位)
10位	基地で働いている人の雇用を安定させること	← (10位)
11位	基地内道路を通行できるようにすること	← (11位)
12位	防音工事の対象を拡大すること	← (12位)
13位	基地に関連する国からの交付金や補助金を増やすこと	← (13位)
14位	基地内のゴミが適正に処理されるよう対策を講じること	✓ (13位)
15位	基地に関連した業者の安定対策を図ること	← (15位)
16位	軍用地料を上げること	← (16位)
17位	その他	← (17位)

### ※地域区分

地域	市町村
北部	名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村
中部	宜野湾市、浦添市、沖縄市、うるま市、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町
那覇市	那覇市
南部	糸満市、豊見城市、南城市、与那原町、南風原町、八重瀬町、渡嘉敷村、座間味村、粟国村、渡名喜村、南大東村、北大東村、久米島町
宮古	宮古島市、多良間村
八重山	石垣市、竹富町、与那国町